

# 県内の情報連絡員報告 令和7年12月

石川県中小企業団体中央会

## 総括

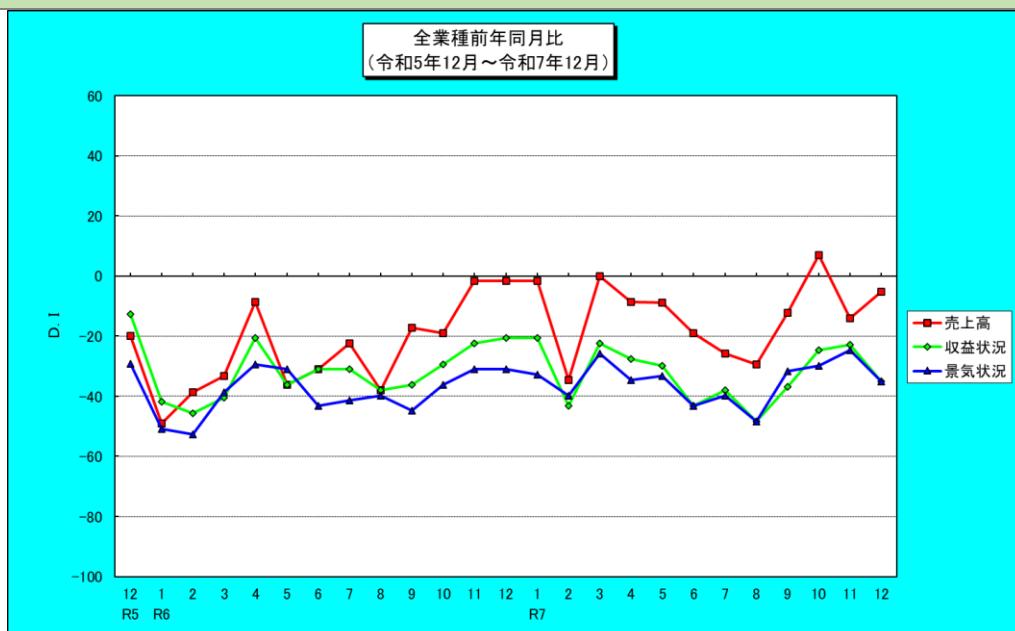
D I 値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、9項目中、6項目が上昇、3項目が悪化となった。全業種において、一部の業種で堅調な動きがみられるものの、依然として停滞・下降傾向が継続しており、全体として明確な回復基調には至っていない。製造業では、9項目中、6項目が上昇、3項目が悪化となった。原材料高、電気料金の高騰や人件費上昇に伴うコスト負担の増大の影響が継続しているほか、アメリカ政権の高関税による輸出コスト上昇や中国のレアアース規制がもたらす影響などにより先行きが不透明な状態となっている。悪化していた業種は、大手建設機械メーカーの需要減少が続いていること、年度内は減産が続く見込みとなった一般機械器具製造業や、原材料である「金」の価格が史上最高値を更新し続け、仕入に苦慮している非鉄金属・同合金圧延業、中国との政治的軋轢の問題から成約実行に影響が出始めている繊維機械製造業、年末年始の買いだめ需要を期待したが、家庭向け需要が落ち込んだ調味材料製造業（醤油）などが挙げられる。一方、その中でも好調であった業種は、民間工場等の新設や能登半島地震震災復興工事に関する需要が寄与した生コンクリート製造業であった。非製造業では、8項目中、2項目が上昇、5項目が悪化、1項目が横ばいとなった。物価高と最低賃金の上昇が経営を圧迫しており、売上が増加してもコスト負担により収益面では依然として厳しい環境にある。悪化していた業種は、しばらくの間は荷動きが悪くなる見込みとなる一般貨物自動車運輸業、年末年始の繁忙時における売上を期待したが、物価高の影響により個人消費が抑えられてしまった商店街などがある。一方、好調であった業種は、忘年会等のシーズンで売上が上がった旅館業（能登方面）、円安によるインバウンド客の増加で土産品の売上が良かった土産品小売業などであった。全体としては、製造業・非製造業ともに原材料等の価格高騰並びに人件費の上昇などにより売上分がコスト上昇によって収益が確保出来ない状況が続いている傾向にある。世界経済を含め、次月以降も注視していく必要がある。

## 前月比のDI値

項目	全体DI	製造業DI	非製造業DI
売上高	-5.3 ( 8.7 )	-12.9 ( 22.6 )	3.8 ( ▼ 7.7 )
在庫数量	-12.8 ( ▼ 19.2 )	-12.9 ( ▼ 16.1 )	-12.5 ( ▼ 25.0 )
販売価格	33.3 ( 5.2 )	32.3 ( 6.5 )	34.6 ( 3.8 )
取引条件	-7.0 ( 3.5 )	-6.5 ( 6.4 )	-7.7 ( 0 )
収益状況	-35.1 ( ▼ 12.3 )	-48.4 ( ▼ 12.9 )	-19.2 ( ▼ 11.5 )
資金繰り	-10.5 ( 1.8 )	-9.7 ( 9.7 )	-11.5 ( ▼ 7.7 )
設備操業度	-16.1 ( 12.9 )	-16.1 ( 12.9 )	—
雇用人員	-14.0 ( 1.8 )	-22.6 ( ▼ 3.2 )	-3.8 ( 7.7 )
業界の景況	-35.1 ( ▼ 10.5 )	-38.7 ( 6.5 )	-30.8 ( ▼ 30.8 )

※1：( ) 内の数字は前月とのポイント差 (▼は減少)      ※2：設備操業度は製造業のみ

## 全業種の前年同月比推移



## <製造業>

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食料品	調味材料製造業	12月の売上高は、対前年同月比で1割減となった。外食向けは堅調であったが、家庭向きで大幅な落ち込みが見られた。年末の買いだめ需要は、もはや過去の出来事である。
	パン・菓子製造業	業界の景況感としては良くもなく悪くもなく、といった感じである。今後の観光客の回復に期待。
織維工業	織物業	先月同様、インテリア関係は動きが悪く不調である。カーテンもスポット対応が主であり安価なものが多い。また、高級ゾーンの定番品の受注が増えず、状況が変わる来年の春以降まで我慢の時である。一方、和装に関しては先月同様、需要に見合うだけの機屋と織機台数が不足しており、少数精鋭で頑張っているが、海外生産に頼らざるを得ない状況である。
	織物業	対前年同月比の生産高は、絹織物が14%減少、合織が5%増加したものの、業界全体として先行きは良くない。
	織物業	織物生産高は4ヶ月連続で前年比減少となった。品種別ではナイロンが対前年比24.5ポイントの増加、ポリエステルが前年対比25.1ポイントの減少となり、織物全体では11.1ポイントの減少となっている。
	その他の織物業 (染色加工)	和装の需要全般が低下している中で、高額品への個人消費はますます低下傾向が強くなっています。式服としてのマーケット縮小が追い打ちをかける状況となっている。売上高は前年同期と比較すると約14%程度減少している。
	ねん糸等製造業	売上高、収益状況ともに悪化。マイナス要因は中国情勢との影響があると思われる。
木材・木製品	製材業、木製品製造業 (加賀方面)	12月の売上高は、前年同月比で30%減少した。大手ビルダーの住宅向け受注は増えているが、地場工務店の仕事は減少しており見通しも厳しい。その他、住宅価格も相変わらず高額となっている。
	製材業、木製品製造業 (能登方面)	12月の取扱量は1023.5m <sup>3</sup> 、売上高は16,047,531円で平均単価は15,678円であった。スギ材は一年を通して安定しており、アテ材の中目良材は需要があるが、12月は少し値を下げた。
	製材業、木製品製造業 (金沢方面)	12月は年間を通して最も繁忙期に当たるため、加工の仕事に関して前月を上回る仕事量であった。しかし、前年度で若干のマイナスであった。売上に関しては販売価格を昨年度から落としているため、こちらも前年同月比でマイナスとなった。為替も円安で進んでおり、仕入れ価格に関しては下がってくる様相は見えない。
印刷	印刷業	売上は、昨年度と同等のレベルを確保できたと思われるが、諸材料等の価格高騰の影響があり収益は昨年よりも低下した。新商品等の企画開発から販売に至る動きは、順調に推移しているように見えるが、絶対額の確保まで到達していないのが現状である。
窯業・土石製品	砕石製造業	12月度の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向け出荷は17.3%増、合材用アスファルト向け出荷は11.9%減少、全出荷量では11.7%増と2ヶ月連続好調であった。今後の対策としては、やはりダンプ不足への対応が必要となっている。
	陶磁器・同関連 製品製造業	干支需要で少しだけ上昇している感じであったが売上はほぼ変わらない。

	生コンクリート 製造業	令和7年12月の県内生コン出荷量は、前年同月比123.3%となった。各地区の状況について、前年同月比でプラスとなったのは、南加賀地区119.2%、金沢地区127.4%、七尾地区138.1%、能登地区112.0%であった。プラス要因として、南加賀地区、金沢地区は民間工場の新設等の影響、七尾・能登の2地区は能登半島地震震災復旧復興工事に関する出荷が寄与した。前年同月比がマイナスの出荷となったのは、羽咋鹿島地区74.0%、鶴来白峰地区88.0%である。官公需・民需別では、官公需98.0%、民需131.1%である。
	碎石製造業	公共工業団地造成並びに産業団地造成工事に係る売上が89,000千円あった。
鉄鋼・金属	一般機械器具 製造業	特に大きな変化は見られなかった。
	非鉄金属・ 同合金圧延業	円安の影響で外国人観光客が多く、金箔貼り体験は人気があるが、お土産品の売上にはつながっていない。また、原材料の金地金価格がこれまでにない高騰(25,000円/g)を続けており、金箔需要は極端に減少し、業界は厳しい状況が続いている。
	鉄素形材製造業 (鉄鉄鋳物の製造)	12月の生産量は対前月比で4.8%増加、対前年同月比で0.5%増加であった。ただし、自動車関連や建設機械関連など全体的に低調であり、横ばいの状況が続いている。
	鉄素形材製造業	建設機械業界に大きな変化はないが、大型機種主体の組合員は厳しい状況にある。円安傾向にあり物価上昇は続くものと思われ、今後も大幅な賃上げは必須になるので値上げ交渉を何度も行っていく必要がある。また、中国のレアアース規制が製造業にとってどのような影響を与えるのか心配である。
	一般機械器具 製造業	前月と状況に変化は見られない。引き続き建設機械大手メーカーは需要の減少が続いている。年度内は減産が続く見込みである。その影響を受けて組合員は、受注が減少し低調な操業が続いている。世界経済の不安定さに伴う受注の動向や米政権の高関税による影響を注視していく必要がある。また、原材料やエネルギー価格の高止まり、受注減少、借入金利の上昇や賃上げで既に景況は悪化しており、今後更に借入金利の上昇が見込まれ経営への影響が一層懸念される。
	一般産業用 機械・装置 製造業	売上は減少傾向にあり、原材料等の高騰もあり収益状況は厳しい状況である。ものづくり企業の仕事量も低調である。報道されている株価や経済報告と実態に違和感が生じている。
一般機器	機械、機械器具 の製造 又は加工修理	当組合は鉄工関係の中小企業で構成されている団体であるが、業況については各社の事業内容によって多様である。組合員のなかでも事業内容による景況感の差が大きいが、全体として収益状況は悪化傾向にあるように感じられる。景況は全体としてみた場合、悪化していると感じている組合員が多い。ここ数年続く物価上昇、人件費の上昇傾向の中にあって、取引先に価格転嫁を依頼はしても必ずしも十分な転嫁は認められていないため、その分の負担が増えていることが主たる原因である。
	機械金属、 機械器具の製造	全体的に業況は安定しており、残業が続いている事業者も見受けられる。
	繊維機械製造業	繊維機械関連の受注状況は、マーケットの中心である中国との政治的な軋轢の問題から、実際の成約実行に影響が出てきている。2026年上半期の受注量はある程度確保されているが、最大市場の中国の動向は今後に影響が出てくることも懸念される。業態ではタイヤコード、エアバッグ等の自動車関連あるいは産業資材関連での強みがある機械での実績が増えてきており期待したい。組合員企業に対しては、情報交換など緊密に行いながら短納期対応・仕様に対しての柔軟な対応を求められている。工作機械・産業機械関連については、2026年前半

		は 2025 年度と同レベルか若干の上振れが予想されている。組合員企業に対しては、品質維持は無論のこと、短納期対応なども要求されている。
	機械金属、機械器具の製造	繊維機械関係は、比較的安定した生産が続いている。しかし、建設機械や自動車関連は低調な状況にある。収益面では原材料価格高騰などコスト増加が重しになっている。メーカーに対し値上げ要請を行い対応されるケースもあるようだが一部に限られている。また、アメリカの高額関税政策による影響に加え、国際情勢の変化にも注意が必要である。
	機械器具及びその他金属製品の製造	前年同月比では雇用人員が悪化しているほかは全て横ばいであった。今後の景気動向に注意していきたい。その他としてレアアース問題で大企業の生産に影響が生じるのではないか。
	機械金属、機械器具の製造	建設機械大手では、米国の施策方針が二転三転するため業績に關税の影響を見通せないものの、多大な影響が出かねない状況が考えられる。そのような中、鉄工業（中小企業）を取り巻く環境は依然として明確な改善の兆しは見えない。国際的な關税問題など外部環境の変化が続くなか、日中関係をはじめとする国際情勢の動向が、鋼材・部品の調達コストや建機需要に与える影響も不透明であり、今後の動向を注視する必要がある。さらに、景気回復の遅れや少子高齢化に伴う人手不足は一段と深刻化しており、組合員には AI を取り入れた生産性向上と働きやすい職場づくりを両立させる取り組みが求められている。このような状況下において、各組合員が自社の強みを見直し、付加価値の向上や業務効率化に主体的に取り組むことが重要となっている。
	機械金属、機械器具の製造 又は加工修理	売上高は対前年同月比、6ヶ月連続してマイナスの見込み。ただし一旦減産に歯止めがかかりそうな感じである。次期計画は今期同等か上向く模様である。
その他の製造業	漆器製造業 (能登方面)	輪島塗の生産活動も少しずつ戻っている状況であるが、新たな受注が減少しているようである。原材料の高騰も続いている。市内の飲食店などの営業再開も少しずつ進んでいるが、今後の需要がどれくらい見込めるか不透明な状況である。
	プラスチック製品製造業	取引先の多くの業種において、景況感は良いとは言い難い状況である。繁忙とされる現場においても人員不足が見られ、思うような生産が出来ておらず、その結果、生産量は昨年並みであるものの残業等により業務負荷が高まっている。そこに賃上げが進んでおり、売上に対し利益の確保が難しく、収益改善が見られない。

<非製造業>

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸売業	その他の卸売業	12月度の売上高は昨対100%となった。中国の需要がかなり落ち込むと予想していたが、ネット販売が順調であったため、その分をカバーした。
	一般機械器具 卸売業	住宅市場は依然として低調ながら、非住宅市場は官公需、民間ともに比較的堅調に推移している。照明設備のLED化リニューアル需要も一部の商品で品不足があるものの継続しており、売上並びに収益ともに前年並みを維持している。
	水産物卸売業	入荷量は減少したが、販売価格は若干上昇し、売上高は前年並みであった。
	各種商品卸売業	先行きが不透明で不安がある。
小売業	燃料小売業	暫定税率廃止に向け、補助金が段階的に増額されたことで価格が大幅に低下。しかしながら販売数量の減少傾向は続いている。
	機械器具小売業	売上高は前年同月比大きな変動は見られぬ状況だが、仕入価格・物流費・人件費・電気料金等のコスト上昇により、収益面では依然厳しい状況が続く。販売価格については一部値上げを実施するも、十分な価格転嫁には至らず利益の確保が困難な状況。一方、修理・点検・取付工事等のサービス需要は比較的安定しており、地域密着型の対応が評価を得ている面もある。物価高の影響から個人消費は慎重な動きが続き、高額商品の動きは鈍く、必要に迫られた買替需要が中心となっている。
	男子服小売業 婦人・子供服 小売業	来店客数は、前年比7~8%減少したが、売上高は横ばいであった。ギフトの多様化が進み、客数は減少したが、商品単価の若干の上昇や良い商品志向が貢献したのではないか、と思われる。
	鮮魚小売業	年末、水揚げ量は少ない状態であった。海水温が高く魚群の動きが変わり鯛が特に不漁であった。全体的に今冬の仕入れ価格は上がった。そのため消費者が買いやすい価格に設定せざるを得なかったため、十分な利益が取れず収益状況は悪くなつた。
	他に分類 されない その他の小売業	インバウンド客が円安の影響で増えているが、2026年も更に増加傾向となる見込みであり期待している。
	百貨店・ 総合スーパー	売上昨年対比101.7%であり、客数昨年対比108.1%であり、売上・客数ともに昨年を超える結果となった。部門別ではファッショ132.7%、服飾・生活雑貨74.9%、食品109.8%、飲食99.3%、サービス114.5%であった。
	茶類小売業	お茶の在庫が無くなってきた。安価なお茶は既に無い状態である。高価格帯のお茶はスーパーマーケットやドラッグストアでは取り扱いが困難となり、取り扱わなくなっている、という話も聞かれるようになった。仕入価格の高騰に向けて内部留保に努めていかなければならない。
商店街	近江町商店街	年末の繁忙期で例年並みの集客はあったが、インバウンド客が多く、地元客は少なかった。ずっと続いている物価高や原材料不足による流通量の減少により、年末商材が高騰し減収となっている。

	白山市商店街	年末の繁忙期を迎えると、地区内の人流は大幅に増加した。特に飲食業においては忘年会需要などで活発化した。これに伴い周辺の小売業やサービス業への波及効果も見られ、地域経済全体に明るい兆しが見られた。
	片町商店街	よほど景気が良くならない限り、商店街全体が売上や収益が好転するということはあり得ない。人気のある店舗は消費者に認めてもらえる価値観を持った店舗、また努力を続けている店舗であると思われる。
	豊町商店街	冬物のアパレルは暖冬のため動きが良くないようであったが、気候は落ち着いていたので全体としては良い月であった。
サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	月初はインバウンド客の勢いが続いていたが、途中から減少となった。年末年始も例年並みであった。
	旅館、ホテル (加賀方面)	一昨年の北陸新幹線延伸、北陸応援割等の反動で客数、売上ともにマイナス基調で推移していたが、12月になってようやく動き始めた感じである。 温泉地全体の宿泊実績は、対前年比で約142.0%と大きく増加したが、昨年休館旅館の営業再開、新規開業旅館が影響している。それ以外の旅館実績では対前年比106.3%と少し増加した。年末年始は大きな雪による影響も見られず観光消費に結び付いた。3月から始まる能登支援策による影響が県内観光全体に波及し、観光動向に結び付くことに期待したい。
	旅館、ホテル (能登方面)	入込客数は対前年比166%、売上250%で増加した。忘年会やディナーショー等で地元客の利用が増加したことが要因である。
	自動車整備業	車検需要は32,382台(対前年比113.4%)と登録車(対前年比110.2%)、軽自動車(対前年比118.7%)は全て前年を上回った。一方、新車販売台数は3,711台(対前年比105.0%)と2ヶ月連続で上回った。
建設業	板金・金物 工事業	人手不足は、下請になる同業他社との連携や外国人労働者の雇用が増えてきつつあるため改善しているように見受けられる。その他として、年内完工という節目の時期を迎え、急ピッチで仕上げ工事を進めたことによる影響で売上が増加したが、収益は増減なしという状態であった。
	一般土木 建築工事業	民間元請・下請受注高は対前年同月比で、土木工事部門の元請は変わらず、下請77%、建築工事部門では元請58%、下請34%となった。官公庁受注高は、土木工事で元請95%、下請66%、建築工事では元請24%、下請55%であった。土木は民間が好調、官公庁は工事も好調である。建築は、民間が減少し、官公庁が大幅に減少している。
	一般土木 建築工事業	公共事業の年間予算は昨年度と同程度であるが、12月時点の受注高は減少傾向にあり、人件費・原料費の上昇や能登半島地震の影響等による監理技術者不足による着工遅延で依然として収益は不安定な状況にある。
運輸業	一般貨物自動車 運送業①	前年同月に比べ運行量が5%程度減少している。しかし、燃料価格が暫定税率廃止に向け段階的に下がっていることから燃料コストが約12%抑えられ、収益が僅かながら上回った。
	一般貨物自動車 運送業②	輸送量は対前年比で14.7%減少、対前月比は15.5%増加となった。今後、しばらくの間前年を下回る状況が続くと思われる。